

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で



平成25年6月8日(土)9時より第42回浜浦祭開会式が行われた。校友会より石黒茂雄常務理事(67回)が出席し、挨拶とお祝金が久代洋貴大会委員長(4年生)に渡され

た。中庭に設営されたステージを中心に、キャンパスには学生達の歓声が飛び交い、テーマ「彩～colorful～」の人それぞれの個性が輝き、今年の浜浦祭は光に溢れていた。

た。～学生の声が響く浜浦に42回の祭りがオープン～

未来の校友会の 会員の諸君へ

湯浅太郎 常務監事(52回)



学生の皆さん『校友会』と言う言葉は余り聞き慣れない言葉だと思いますが、日本歯科大学校友会は、卒業生が親睦を図りながら卒業した後の活動を互いに支え合っている組織です。また、学生会が主催する富士見祭や浜浦祭などの各種行事にも参加して、親しく学生の皆さんと交流も図っています。

日本歯科大学校友会は、明治42年に設立され今年で104年を迎えますが、現在9千数百名で組織され、全国の歯科大学の同窓校友会の中でも一二を争う歴史ある大きな校友会となっています。

皆さんは、やがて本校を卒業して厳しい社会へ巣立っていくわけですが、大きな困難に直面したとき親身になって相談に乗り力を貸してくれるのは、私の経験から言っても校友の仲間達です。

この度、発刊された校友会と学生を結ぶ季刊誌「KOYU Times」をお読みになって、学生時代から校友会という組織を良く理解し、卒業後は心強い本学の同窓の仲間達が集う校友会に、是非入会していただきたいと願っています。

校友会・学生会 特別講義 (生命歯学部)

テーマ

歯医者を楽しむ3つの法則 ～型破り、形がなければ形無し～

平成25年5月14日(火)特別講義

●講師：附属病院臨床教授

高松 和広 先生(74回)

5月にしては暑い一日だったが、九段ホールに100余名の3年生が集合し、夕方6時に緊張した面持ちの学生会のメンバーによる司会進行で 始まった。高松先生は学生時代ラグビー部で活躍され、今はダイビングが趣味だという。ご本人の人生、



臨床経験を交えて「歯医者を楽しむ3つの法則」の話がされた。歯科医として楽しんでいる人達にはいくつかの共通点があり、それは「1.出会いと繋がりを大事にしている。2.楽しみながら学んでいる。3.何かに貢献している。」の3つであるという。歯科医療の持つ本来の意味を考えたとき、楽しんで仕事をし学び、校友会も然りだが出会いと繋がりで絆を育み、それにより患者さんだけでなく何かに貢献できれば素晴らしいことではないか。その法則を作るため、故中村勘三郎の言葉を引用され、「型破り、形がなければ形無し」から形(基礎)を作ることが大切と結ばれた。

学生諸君、何事も基礎が大切ですよ！

新校友会員の皆様の輝かしい未来に幸多かれ

第102回卒業の皆様、おめでとうございます。校友会としても心からお祝い申し上げます。本学を卒業したことを誇りに、そして皆様自身が本学の誇りとなるよう、歩まれることを願っています。日本にいる限り、どこに行ってもそこには校友会の組織があり、先輩がいます。そこにいる先輩達は必ず皆様の力になってくれます。校友会も私達の百年を越える歩みを継続し、発展させる世代を必要としています。

皆様方の輝かしい未来に幸多いことを祈念し、入会歓迎の挨拶といたします。



藤井重壽 副会長(62回)



TOKYO

繋がりを大切に

亀岡 亮(102回)



私が校友会の先生方と関わりを持たせていただくきっかけとなったのは、今年で三年目に突入した校友会・学生会による特別講義とともに企画・立案したことでした。

私自身、当初は校友会を縁遠いものと感じていましたし、目上の先生方、しかも校友会会長も同席しての話し合いということで、非常に緊張したことを今でも覚えています。しかし回数を重ねていくうちに、卒業後の同窓生の大切さ、校友会のことを話していただき校友会自体を身近に感じることができました。さらに講義終了後のアンケートでは、母校のOBにこんなに素晴らしい人がいるのかと、刺激をうける有意義だったという意見も多く寄せられました。学生にとっても、校友会を身近に感じる良い機会になったのではないかと思います。私は現在、母校を離れて研修を行っています。そこで強く感じるのは、同窓の先生方との繋がりで。さまざまな出身大学の先生が在籍するなかで、年代は異なっていますが、6年間同じ母校で学んだことにより共通の話題も多く、また雰囲気も似ていると感じられ、非常に親しみやすさを感じました。これは一度母校を離れなければ感じるのではないかと思います。

これからも日本歯科大学の卒業生としての自覚を忘れず、OBの先生方との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

NIIGATA

校友会入会にあたって

五十嵐久郎(102回)



今春、6年間を同じ校舎で過ごした仲間と共に国家試験に合格し、晴れて校友会に入会できたことを大変嬉しく思います。卒業後、私は今、がん・感染症センター都立駒込病院にて歯科臨床研修医をしております。がん診療連携拠点病院として駒込病院は貴重な勉強をできる場所であり、患者さん一人ひとりに向き合える場所でもあり、日々自分の至らなさを痛感させられる場所でもあります。

本紙“KOYU times”創刊号では「医の博物館」の紹介がされており、現在の母校の状況を知ることができ、校友会HPでは各界で活躍されている先輩方を知ることができました。

私は本学新潟生命歯学部卒ですが、校友会員として、本学生命歯学部の状況も知ることができます。校友会は卒業後も様々な情報を共有できる有意義なコミュニティです。校友会の先輩の方々に助けていただきながら、勉強に励んでいきたいと思っています。また時が経ち、校友会の後輩ができた時には、僅かながらでも手助けをしたいと思っています。

諸先生方が築いてこられた歴史と伝統を大切に、日本歯科大学校友会員の名に恥じぬよう、自分らしさを忘れない志を持って、歯科医師として精励いたします。

これからもご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

女性歯科医師の集い2013 に参加しました

女性会員の親睦と学術向上を目的に毎年開催される「女性歯科医師の集い」に、今年も春風に誘われ全国から127名の卒業生が集まりました。

平成25年4月14日(日)九段ホールにて「開業医のための口腔粘膜疾患の外科病理」をメインテーマに講演会が、午後からはメインホールで懇親会が開催され華やかに「NDUデンタルコレクション2013」が行われました。



乾杯の挨拶は矢部常務理事です



中原会頭よりご挨拶と女性卒業生にエールが
おられました



柳下先生と校友会のナイスミドル近藤会長、光安相談役、
倉治専務理事(左から)が、にこやかに出迎えます



清水春名先生(右端)と6人のハンサムウーマン!! 白衣に注目してください



笑みを浮かべながらも、熱心に講演に聴き入る先生方です



(藤澤愛美・101回 記)

附属病院 歯科
放射線 口腔
病理診断科長柳下寿
郎 准教授(78回)の
学術講演「開業医の
ための口腔粘膜疾患
の外科病理」で、臨
床での粘膜疾患の悪
性・良性との鑑別ポ
イントについてお話
がありました。私が
印象深く感じたこと

のうち、一つは、「疑わしい症例は“聞いて、診て、調べて”を記録に残すこと」。自分の成長の為に、また身を守るためにも正確に行う事が重要である。二つ目は、「疾患を見分ける上で異変に対し“きれい”“汚い”を見分ける目を持つこと」。なぜ『がん』はこのよう

色をしているのか、病理の基礎的な知識を確認しながら、講演していただきました。また、義歯使用者の「傷」に関して食事以外は外し、局所的な投薬も一週間は行わず、治癒すれば良性和判断する、など臨床経験の浅い私にも明日からすぐ実践できる内容ばかりでした。口腔がん検診の義務化の可否について問われている時代に、口腔内を診る医師としてまずは疑う目を持たなくてはならないとあらためて感じました。

続いての懇親会では女性らしい発想で白衣のミニファッションショー「NDUデンタルコレクション2013」が開催され、私自身モデルとして参加しました。ウォーキングスタイルの清水春名先生に姿勢、立ち居振る舞い、歩き方の個人レッスンを受け本番に臨みました。日々、いかに楽をして筋肉を使わずに生活していたかを実感し、生活習慣を見

直す良い機会となりました。姿勢を整えることにより日々の診療において、目、肩などの疲れを予防することにつながるのではないかと感じました。また、パーティーにおいてのマナー講座も行われ、とても楽しい時間を過ごしました。

今回は私自身、初めての校友会行事への参加でした。同じ女性として、たくさんの先生方が活き活きと活躍されていて、私の励みになりました。会に参加することにより、学術面もさることながら校友の温かみも感じる良い経験でした。このような機会を下さった、校友会の先生方に感謝申し上げます。この「女性歯科医師の集い」は、女性会員の親睦と学術向上を目的に毎年開催されています。今年も春風に誘われ全国から127名の卒業生が集まりました。どうか、学生の皆様も気軽にお出かけ下さい。

スポーツ・文化・学術大賞を受賞しました



スポーツ・文化・学術大賞は、年間を通し学生生活で顕著な功績を挙げた両学部の学生各一名を、校友会より表彰しその功績をたたえることを目的として創設されました。

一度はこのような賞をいただき大変恐悦至極でございます。これは自身一人で、できたことではありません。諸先生方、諸先輩方、諸体育会員の方々、校友会の方々、皆様の多大なる御協力の賜物です。決して私一人では学校行事等を成功させることはできませんでした。

大学という一つの学び舎において、組織というものが機能していくにはどのようにしたら良いのか、ど

うしたらより良い環境を学生に提供できるか、日々思索にふける日々でした。自身の実体験を元に模索しようにも、何分若輩者ゆえ答えを出せるわけではありませんでした。そういった私にこのような賞は似つかわしくないと思いましたが、諸先生方、諸先輩方には常に見続けていただき、過分な評価をいただきました。

これからも賞をいただいた者として名に恥じない振る舞い、行動を取り続け、後輩に、日本歯科大学に、社会に貢献できる医療人を目指し、実直に進んでいきたいと思ひます。

新潟生命歯学部5年生
種市 葵 (写真右)

平成25年1月19日に、長野県菅平高原スキー場で鹿角国体埼玉県予選に出場、無事2位となり予選通過をいたしました。その後2月18日に秋田県花輪スキー場で開催された、第68回国民体育大会冬季大会スキー競技会へ出場となりました。当日は吹雪というスキーの大会にとって非常に良くない天候でした。各都道府県代表の強豪選手が集まっているだけあり、いつもとは違い張りつめたムードのなかで競技が行なわれました。予選通過が2位であったために、スタート順は56番目という不利。スキーの大会では全選手が同じコースを滑るために、スタート順が遅いとコースに溝ができコンディションが悪くなります。スタート前の情報でも、すでにコースのコンディションは悪いとのことでしたが、あまり気にせず、いつもの



通りゴールを目指して滑り出しました。急斜面が多い難しいコースでしたが、大きなミスもなく自分の滑りができ、この時点で6位であり、その後抜かされることもなく無事入賞することができました。

来年もさらなる上位を目指して文武両道となるような1年間を過ごしていきたい、よろしくお願ひいたします。

生命歯学部5年生
矢部愛子 (写真左)

お知らせ

第4回東京・新潟をつなぐ会 in 栃木2013

栃木県出身の学生諸君、夏休みに宇都宮の地で逢いましょう！

この会は両生命歯学部栃木県人会の相互交流と親睦を目的としたものです。

＊＊

開催日：平成25年8月10日(土)18時30分～

開催地：宇都宮市総合文化センター 2F

『ラカンタ』県庁前

参加費：1,000円

※準備の関係上、幹事さん(生命歯学部：七井綾美・磯 亮輔、新潟生命歯学部：小宅一輝・木村加奈)に必ず出欠をお伝えください。両幹事さんは人数を取りまとめて7月15日までに県校友会幹事水沼まで報告してください。

診療室での物語

カルテ No.2

医療人は心から



新潟病院
副院長 黒川裕臣 (70回)

歯科医師B、歯科衛生士C、学生Gのチームで施設に到着。早速、初診患者さんの87歳女性Aさんと対面し、歯科医師Bは、診療録とデータファイルを片手に医療面接を開始する。その脇で歯科衛生士Cが準備を始める。

まず、既往歴を時系列で聴取し、さらにそれぞれについて発症時から原因、後遺症の有無、投薬、日常生活、摂食の状況など順序よく全身状態を聴取している。主たる既往疾患は脳梗塞のため、脳梗塞後遺症の程度を念入りに確認し、現在の抗凝固

療法のコントロール状態を血液検査データを見ながら施設の主治医と会話をしている。

学生Gは緊張した面持ちで直立不動(時々、頷いているが会話をどのくらい理解しているか不明)。

B「Aさん、お口の具合どうされましたか」

A「2週間前からごはんを食べている時、下の入れ歯が痛くなり始め、2、3日前から痛みが強く食べられないので困っています」

口腔内診査は、上下顎総義歯(右下3残根上義歯)で、右下3部は発赤・腫脹、ポケットからの排膿、自発痛、咬合痛がある。ポータブルエックス線などの診査よりP急性発作と診断する。

Bは、小気味よい会話でAさんと家族に病状、治療内容まで説明し、治療の承諾をいただく。

B「治療して、入れ歯使えるようにしましょう。Gくん、バイタルお願いします」

G「私はGです。よろしくお願ひします。最初に血圧を測らせていただ

きます」

(事前に何回も練習したので余裕の雰囲気) マンシットを上腕部に巻き、カフ圧を上げ、自動血圧計の測定結果を待っていたが“error”が表示された。

C「マンシットを巻き直して、もう1度測ってみて」

Gは言われたとおり血圧計を巻き直し、もう一度測定するが表示は、再度“error”を示した。

B「いくつだった？」

G「すつ、すみません。もつ、もう一度測らせて下さい(こんな こんな、はずじゃないと動転ありあり)」

B「加圧不足かな。脈をとりながら圧を上げて、最高血圧のおおよその値を把握しないといけないよ」



G「はい。手順通りなんです」

A「そんなに緊張しなくていいから。測る人が緊張したら私の血圧も上

がってしまうわよ(笑)。頑張って、頑張って」

血圧計からピーと音が鳴った。

G「先生、(ほっとした表情で)上が140、下が82です。Aさん何度もすいませんでした。腕痛くありませんか」

A「こちらこそ、ありがとう。痛くないわ」

その後、G君の態度が功を奏し、順調に必要な処置をし終了。

在宅車内で

G「B先生、血圧測定出来なくてすいませんでした」

B「たしかに迷惑はかけたけど、そのぶん、何か解らなかった？」

G「解りません」

B「君の態度がAさんに伝わって、穏やかな雰囲気初診が出来たのは、君の功績だよ。真摯な態度が医療人の第1歩だと思う。今日の体験で医療人は心からを学んだと思う」

G「(厳しい指導を覚悟していたのか、意外な展開に戸惑いの表情で) はい、解りました」